

研究構想図

国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

学校目標 ◎しっかり考える子ども

- すなおでやさしい子ども
- 元気な子ども

児童の実態

- 読書への関心が高い。
- 目的に応じて読んだり、引用部分や表現の工夫を適切に捉えたりすることが不十分である。
- 自分の思いや考えをもつこと、発表することへの苦手意識がある。

目指す児童の姿

自分の興味や関心を基に、学習の見通しをもち、自ら学び、適切に表現し、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童

研究主題

「主体的に表現する児童の育成」

～自分の考えをもち、協働的に学習することを通して～

<研究仮説> 国語科「読むこと」を中心とした学習において、単元全体を見通した学習過程を設定し、学習課題に対して根拠を明確にして自分の考えをもたせ、協働的な学びの場で交流させることにより、主体的に表現する児童を育てることができるであろう。

低学年分科会仮説

叙述に即して読み、読む楽しさを味わえば、主体的に自分の考えを表現しようとする児童を育てることができるであろう。

中学年分科会仮説

叙述を基に読みを深め、友達の感じ方や考え方と比べながら交流すれば、主体的に自分の考えを表現する児童を育てることができるであろう。

高学年分科会仮説

読みの視点を明確にして、自己学習や交流活動に取り組めば、主体的に自分の考えを表現する児童を育てることができるであろう。

主体的に表現する力を高める

研究の視点

- ・単元全体を見通したカリキュラムデザイン(習得→活用→探究)
- ・主体的な学びのための学習過程の工夫
- ・課題解決のための協働的な学びの場の設定
- ・学びを深めるための評価

読書活動の充実

- ・朝読書
- ・保護者による読み聞かせや読み聞かせイベント
- ・関連図書コーナーの設置
- ・学校図書館サポーターとの連携
- ・図書委員会による読書郵便

語彙を増やす

- ・語い語いタイム
- ・国語辞典の活用
- ・話型の視覚化
- ・全校朝会での6年生の挨拶やスピーチ、各学年の生活目標についての取組を発表

対話的な学び

- ・交流のめあて
- 低学年…自分の考えを発表し合う。
- 中学年…友達の考えと比べる。
- 高学年…自分の考えを広げ深める。
- ・目的に応じた形態
ペア、グループ、全体

考えの可視化

- ・ICT機器(書画カメラ、プロジェクトタなど)の活用
- ・グループで学習シートのコピーを推敲
- ・サイドラインの色分け、付箋の添付による思考の類別

日常的な取組